「今日の説教、聴き手のために」　2007/12/23　明治学院教会(98)

（このプリントは毎週作っているものです）　岩　井　健　作

「人々の知らない間に生まれたイエス」

新約聖書　マタイ福音書２章１節－１２節

1、聖書を読んで［第１に］気が付くことは、そのメッセージは「神」が主語で語られていることです。例えば、「初めに、神は天地を創造された」（創世記1:1)。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」（ヨハネ福音書3:16）。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して・・・御子をお遣わしになりました」（ヨハネの手紙Ⅰ4:10）。ところが、人間の生き方は、ほとんど「自分が」主語で、自分中心ですから神を主語にすることは難しいことです。「神」を主語にしているつもりで「自分の神」が主語になっています。

2、詩を一つ紹介します。皆様も、きっとよく知っている詩です。マーガレット・F・パワーズ作「あしあと」です。（『あしあと』著者M.F.パワーズ、訳者松代惠美 1996　太平洋放送協会）。　ある夜、私は夢を見た。／わたしは、主とともに、なぎさを歩いていた。／暗い夜空に、これまでの私の人生が映し出された。／どの光景にも、砂の上にふたりのあしあとがのこされていた。／一つはわたしのあしあと、もう一つは主のあしあとであった。／これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、／わたしは、砂の上のあしあとに目を留めた。／そこには一つのあしあとしかなかった。／わたしの人生でいちばんつらく、悲しい時だった。／このことがいつもわたしの心を乱していたので、／わたしはその悩みについて主にお尋ねした。／「主よ、わたしがあなたに従うと決心したとき、／あなたは、すべての道において、わたしとともに歩み、／わたしと語り合ってくださると約束されました。／それなのに、わたしの人生のいちばんつらい時、／ひとりのあしあとしかなかったのです。／いちばんあなたを必要としたときに、／あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのですか、／わたしにはわかりません。」／主は、ささやかれた。／「わたしの大切な子よ。／わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。／ましてや、苦しみや試みの時に。／あしあとがひとつだったとき、／わたしはあなたを背負って歩いていた。」

3、聖書を読んで［第２に］気が付くことは　聖書の神は、人の姿で「飼い葉おけから十字架への道」を歩まれたということです。それを記したのが「福音書」です。その一番初めのお話が「人々が知らない間に生まれたイエスの物語」です。

4、聖書を読んで［第３に］気が付くことは　イエス（人となった神）を知ったのは、人間の世界では、権力、富み、地位、学識、能力に安住して、上昇思考をもつ人ではなく、周辺、底辺、弱者でありながら、なお助け合い、支え合い、慰め合いっている、人たちでした。東の博士たち、羊飼いはそれを象徴しています。